

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

アルコール依存症の医療研修プログラムをモデルとした、オンライン研修に対応できる実践的な医療研修プログラムの標準化等を推進するための研究

研究分担者 齋藤利和

**研究要旨** オンライン研修に対応可能であり、臨床現場で即戦力となりえる、医療従事者を養成できる実践的な医療研修プログラムを構築することを目標に、そのモデルとしてアルコール依存症の治療援助者を養成するプログラムの作成を試みた。そのため、エキスパート調査、当事者からのヒアリングを行い、研究班員だけではなく、実臨床の場に現に従事している多数の研究協力者から提起された数多くの試みを論議し、より実践的な治療プログラムの作成を試みた

**A. 研究目的**

近年、ICD-10 の診断基準によって推定されるアルコール依存症者数は実際に医療機関で治療を受けているアルコール依存症者の 10 倍以上に達するとされており、従来の治療援助の対象となっていなかったアルコール依存症者に対して早急な医療的対応が求められている。こうした診断治療ギャップの主たる要因はアルコール依存症の治療援助に携わる人材の不足であり、人材育成のためのプログラム、教育方法の開発が急務である。さて 2019 年以降世界中で発生した COVID-19 パンデミックは人々の外出を困難にし、社会経済活動は低迷せざるを得なかった。こうした状況を拡幅すべく、社会全体のオンライン化が進んだ。医療の分野でも同様に従来の集合研修からオンライン会議ツールを利用したオンライン研修への移行が散見される。しかしその多くは講義をオンラインで行っているにすぎず、

オンライン化の利点を十分に生かしているとはいいがたい。研修をオンライン化すると集合研修に比べ講師および研修生の負担が格段に軽くなることである。すなわち、交通費、移動時間の大幅な削減が可能であり、研修生は全国どこにいても、同じ質の講義を受けることが出来る。また、大人数で講義を受けている圧迫感がなく、講師と研修生とのコミュニケーションも比較的容易となる。また、オンライン上の掲示板機能を活用することによって、研修生は講師との交流だけではなく、研修生相互の交流も可能となると思われる。また、研修会場を確保する必要もなく、低コストで運用することが出来る。そのうえ、録画講義などは繰り返し視聴可能であり、いつでもどこにいても研修生の学びの機会は確保されることとなる。こうした、オンライン化の利点を活用した、医療研修プログラムができれば、研修生に対して、多様な学びの機会

を提供し、低コストで高い教育効果をもたらすことが期待される。

そのためアルコール依存症者に対する治療・援助者を養成するために知識だけではなく、知識だけではなく、患者の人権にも配慮し、患者のニーズを十分取り入れた、より実践的なオンライン医療研修プログラムを作成することが本研究の目的となる。

## B. 研究方法

初年度はオンライン研修プログラム作成のため以下のことを試みた。

まず、当分担者が主宰する「アルコール依存症実践塾」のメンバー（現にアルコール依存症の治療・援助に携わっている人たち）にアンケートを行い教育研修に望むことを調査した結果、「最新の知識」のほか「困難事例への対応」「個別性を踏まえた対応」「先達の知恵」「多職種連携」などが挙げられた。したがって、研修プログラムではより実践的な知識と臨床技術の獲得を目的とする他、プログラム終了後のフォローアップ研修において、ファシリテーターを務める研究班員や研究協力者の実践における体験（先達の知恵）が十分に伝わるよう、工夫することとした。研修プログラムでは「アルコール依存症の実態」、「アルコール依存症の成立因子」、「アルコール依存症の治療」、「家族の心理と支援」、「当事者の自立と社会生活」などを骨子とし、最新の知識を学ぶほか、アルコール依存症治療・援助における権利擁護と人権、現場における多職種連携、多機関連携を理解し実践していく能力を身に着けることも獲得目標とした。教育研修プログラムをより実践的に構成するために、アルコール医療・援助の

現場で活躍している研究協力者。研究班員に研修コンテンツの作成を依頼し、提出されたコンテンツについては主に班員による点検、論議を行い、その妥当性はトライアルを行い評価することとした。また、オンライン研修開始前に有識者、当事者、家族からなるプログラム検討委員会での点検、論議、評価を十分に尊重し研修を開始することにした。前述したプログラム終了後のフォローアップ研修において、ファシリテーターを務める研究班員や研究協力者の実践における体験（先達の知恵）が十分に伝わるよう、少人数で行うことや時間についても配慮したい。また、同様の形式。目的で行われている「アルコール依存症実践塾」も参考としたい。

## C. 研究結果

研修コンテンツの作成に関しては作成者と班員の間で点検議論を続けた。集合会議である第1回班会議を2022年11月23日に、第2回班会議を12月18日に2023年1月7日の第3回班会議では研修プログラム作成に携わる研究協力者にプログラム作成のための演習、医学教育から見た研修について学んでいただいた（さいがたワークショップ）。第4回班員会議は2月12日に、第5回班会議は4月17日にさいがた医療センターで行い研修コンテンツの進行状況、内容についての論議・検討を行った。来る6月4日の小規模トライアルを経てさらなる研修コンテンツの改善を続けるつもりである。また、来る8月4日、5日、6日に赤平市の社会医療法人博友会平岸病院の講堂、会議室、宿泊施設においてフォローアップ研修の、ファシリテーター

を務める研究班員や研究協力者のスキル向上のための合宿研修会を開催する予定としている。

#### **E. 結論**

オンライン研修に対応可能かつ臨床現場で即戦力となり得る医療従事者を養成できる実践的な医療研修プログラムを構築するという当研究班の目的を達成するに足る、研修コンテンツとフォローアップ研修のファシリテーターの養成が当班研究にとって重要であると思われた。

#### **G. 研究発表**

##### **1. 論文発表**

なし。

##### **2. 学会発表**

佐久間寛之、斎藤利和、大槻眞嗣、杉浦真由美、堀場文彰、稲熊容子、太田充彦、村山裕子、阿部かおり、大越拓郎  
「アルコール依存症研修に対するニーズおよび依存症医療者に必要な資質に関するエキスパート調査」第34回九州アルコール関連問題学会 2023.3.24（福岡）

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

（予定を含む。）

##### **1. 特許取得**

なし。

##### **2. 実用新案登録**

なし。

##### **3. その他**

なし。